

機関番号：34520

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520146

研究課題名 (和文) インテリア空間に表出される精神の病みに関する調査研究

研究課題名 (英文) Study on Desolation of the Spirit Expressed in Interior Space

研究代表者

加藤 力 (KATOU TSUTOMU)

宝塚大学・造形芸術学部・教授

研究者番号：40111992

研究成果の概要 (和文): 人の精神的な病みの症状は、その人の身の周りの環境に自ずと表れる。それは人が、自らの周辺環境を自己化すると共にそこから影響される、という相互関係性を持つからである。ここではインテリア空間の「要素」「表出」「構成」を縦軸に、「時間」「意識」「行為」を横軸とした評価マトリックスチャートを作成し、精神の病みがインテリア空間に投影されることについての関係性を明らかにした。

研究成果の概要 (英文):

The symptom of someone's mental depression is naturally expressed in his or her surroundings. There is an interrelationship that a resident identifies his or her living environment, and is influenced from there at the same time. Here, a matrix chart for the evaluations regarding mental depression and interior space was created. The vertical axes are "Element", "Expression", and "Composition" of interior space. The horizontal axes are "Time", "Consciousness", and "Behavior" of resident. As a result, a relationship which mental depression was projected in interior space was clarified.

交付決定額

(金額単位: 円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：インテリアデザイン、人間工学、社会心理学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：表層文化論、インテリアデザイン、社会心理、精神病理、住居計画

1. 研究開始当初の背景

近年、引きこもりや青少年の犯罪など精神に病みを持つ若者が多い。こうした若者達が住まう部屋の状態が時折、メディアに取り上げられることが多い。これらを見ると、空間と精神の病みとの間には、ある種一定の暗黙とでも云える関連性が存在することがうかがえる。すなわち人間が住まう空間の有り様には、外的に観察される生活行動のみならず、精神的、心理的、あるいは社会的な住み手の状態が反映されると、判断できる。ここに注目した。

2. 研究の目的

ここでは精神に病みを持つ若者達とその人が住まう部屋のインテリア空間を取り上げ、(1) まず、その実態を調査、明らかにし、それらの関連性と内容に関して実証を行う。(2) 次に、精神の病みとインテリア空間に表出される実態との関連や因果性に関して考察を行う。(3) さらに、このような精神の病みから若者達を立ち直らせるための方策に関して、空間計画学の側から解決のための手がかりを得ようとする。

3. 研究の方法

長年、我々が「インテリア空間の自己化に関する調査研究」において採用してきた最も効果的で実績を持つ以下の二つの調査研究方法によった。

(1) 住み手の住まうインテリア空間を対象にした住み手による「写真投影法」による実態調査と、その心理解析。

(2) 映し出されたインテリア空間の写真映像に対する住み手の発話を手がかりとしたプロトコル分析。

4. 研究成果

精神の病みとインテリア空間の表出との関連性に関して以下のような3つの分析・評価マトリックスチャートの作成に導くことができた。

(1) 意識-表出軸チャート

インテリア空間における表出状況（部屋の飾り付け、しつらい実態）の量（多少）を縦軸に、もう一方表出に対する住み手の意識的内容や態度（自己性-他者性のかかわり度合い）を横軸とした分析評価チャート。それぞれマイナス2～プラス2までの5段階評価。

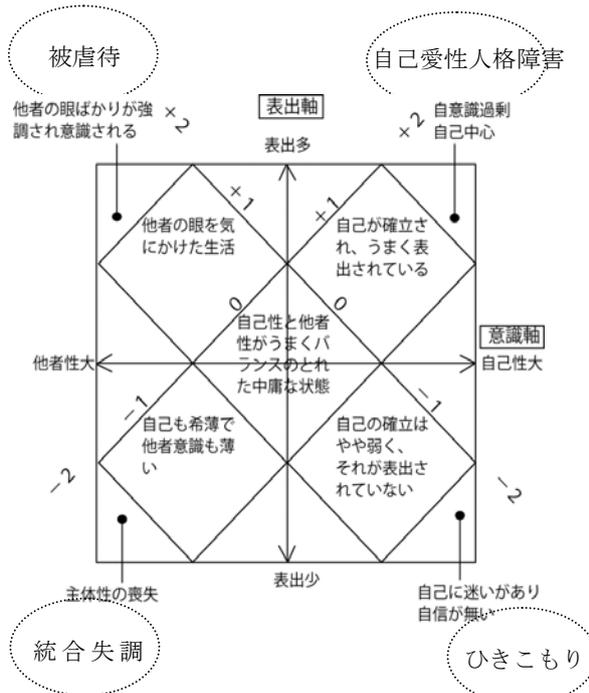


図-1 意識-表出軸チャート

(2) 要素-時間軸チャート

住み手によってインテリア空間に持ち込まれ表出された各種インテリアエレメントの量（多少）を縦軸に、もう一方それらのエレメントの持つ時間的意味（住み手にとって過去それとも未来として意味を持つか否）を横軸とした分析評価チャート。これもマイナス2プラス2までの5段階評価。

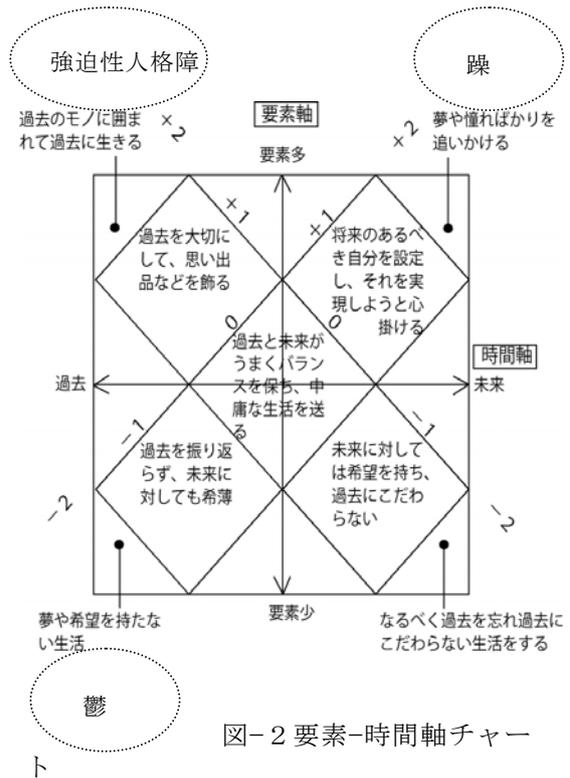


図-2 要素-時間軸チャート

(3) 構成-行為軸チャート

インテリア空間に表出されたモノの状態（統一・整理-混乱・乱雑度合い）を縦軸に、その構成に至る行為の主体性（主体的-受動的）を横軸とし他分析評価チャート。これも5段階評価を行う。

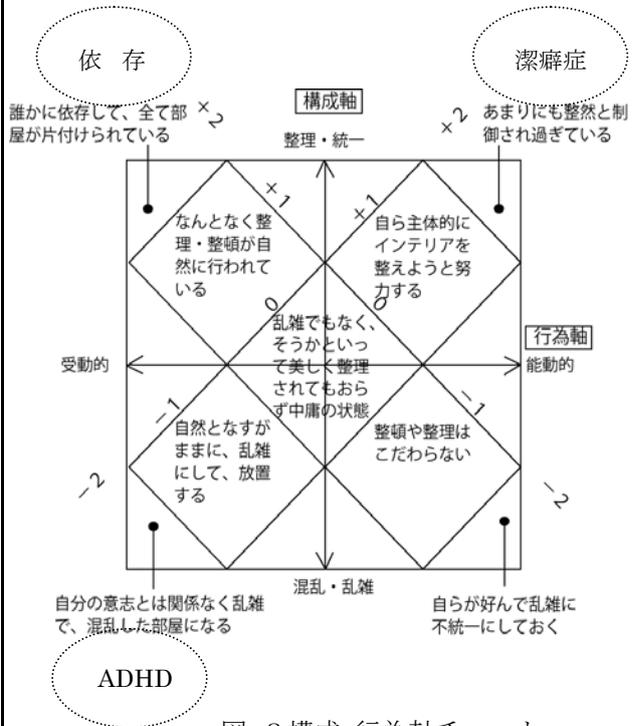


図-3 構成-行為軸チャート

チャートの中心部(0,0)は通常的であり、ありふれた状態と判断できる。そこで、この部分を「通常域」とした。次に、通常域を取り囲む周辺部分(±1, ±1)はある特定の傾向が認められる範疇であると判断して「分別域」とした。さらに、分別域の外側に位置する部分(±2, ±2)はある程度偏った状態にあると、判断してこの部分を「偏向域」として取り扱うこととした。

(4) 今後の展開

この研究の最終的目標は、精神の病みを持つ者に対してインテリアの領域から、この精神の病みを取り除こうとする方法の可能性を探ることにある。それは本研究をさらに展開させることで「インテリアセラピー」なる新たな学際領域へ到達させることでもある、と言ってもよい。

インテリアセラピーに関連して、新たに「クリエイティブ・コンピテンシー」なる言葉について取り上げたい。クリエイティブ・コンピテンシー(創造的力)とは、ここで新たに用いられる造語であり、人間、誰にも生得的にそなわっている能力を意味する。特に人間の持つ芸術的感性、あるいは造形・芸術的能力等をさす。人間は、自らのごく身近な周辺環境を自らの感性や行動・活動に合わせて、対応し造りかえ、快適に過ごそうとする基本的、潜在的意志や能力がもともとそなわっている。人間が自分の環境に適応しながら生きていく能力であり、この力がクリエイティブ・コンピテンシーである。

すなわち、人間と、その人間を取り巻く環境との間には環境から影響を受ける反面、逆に環境に対し自らが手を加えるという相互関係が成り立っているのである。だが、この潜在的な能力が日常の生活の中で巧く発揮できない、あるいは有効的に働かない、不適合を生じる等、通常の人々とは異なった異常状況を呈する。そうした人々の存在を本研究では明らかにした。

そこで、クリエイティブ・コンピテンシーを正常に働かせることを喚起・誘導させることが精神の病みから克服させる契機に繋がる、というのがインテリアセラピーの考え方である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- ① 加藤力、松田奈緒子、インテリア空間表出される精神の病みに関する調査研究、その1研究の背景と枠組み、日本インテリア学会大会梗概集22、2008年9月pp. 65-66
- ② 加藤力、松田奈緒子、インテリア空間表

出される精神の病みに関する調査研究、その2空間と精神の病みについての評価方法、日本インテリア学会大会梗概集23、2009年9月pp. 19-20

- ③ 加藤力、松田奈緒子、インテリア空間表出される精神の病みに関する調査研究、その3インテリア空間から見る精神の病理、日本インテリア学会大会梗概集22、2010年10月pp. 47-48
- ④ 松田奈緒子、加藤力、インテリア空間に表れる精神の病み(1)日本社会心理学会、ポスターセッション2008年
- ⑤ 松田奈緒子、加藤力、インテリア空間に表れる精神の病み(2)日本社会心理学会、ポスターセッション2009年
- ⑥ Kato Tsutomu, Matsuda Naoko. Study on Desolation of the Spirit in Interior Space. AIDIA VOL17 2009

[学会発表](計5件)

- ① 加藤力、松田奈緒子、インテリア空間表出される精神の病みに関する調査研究、その1研究の背景と枠組み、日本インテリア学会大会梗概集22、2008年9月pp. 65-66
- ② 加藤力、松田奈緒子、インテリア空間表出される精神の病みに関する調査研究、その2空間と精神の病みについての評価方法、日本インテリア学会大会梗概集23、2009年9月pp. 19-20
- ③ 加藤力、松田奈緒子、インテリア空間表出される精神の病みに関する調査研究、その3インテリア空間から見る精神の病理、日本インテリア学会大会梗概集22、2010年10月pp. 47-48
- ④ 松田奈緒子、加藤力、インテリア空間に表れる精神の病み(1)日本社会心理学会、ポスターセッション2008年
- ⑤ 松田奈緒子、加藤力、インテリア空間に表れる精神の病み(2)日本社会心理学会、ポスターセッション2009年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 力 (KATOU TSUTOMU)
宝塚大学・造形芸術学部・教授
研究者番号: 40111992

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

松田 奈緒子 (MATSUDA NAOKO)
元京都工芸繊維大学・ベンチャーラボラトリー・研究員
研究者番号: 60556900